塩瓦

九

太政官文庫

和書門		一一四九七	一ノ一函	二架	六五冊

内閣文庫

和書		一一四九七	六五	二二函	二一架
内閣文庫	類	號	冊	函	架

内閣文庫		
番號	和 11497	
冊數	65 (9)	
函號	211	302

国立公文書館
National Archives of Japan

教育部文庫印 消印

遷宮年暦畧記

宮内省図書寮文庫 消印

内閣文庫

政府図書

九

丙一二七九〇號

。皇太神宮内宮

禽仁天皇二十六年丁巳鎮座伊勢ノ國度會ノ郡宇治五十鈴河上ニ持統天皇四年庚寅九月遷宮自リ此以ニ廿年ヲ為ル造替ノ式年ト

元明天皇和銅二年己酉自ニ己酉ニ至テ戊辰ニ九ヲ二十年神亀五年

聖武皇帝天平元年己巳

同十九年丁亥　称徳皇帝ノ天平神護二年丙午

桓武天皇延暦四年乙巳同十一年壬申依テ炎燒ニ臨時遷宮

嵯峨天皇弘仁元年庚寅淳和天皇天長六年己酉

仁明天皇嘉祥二年己巳清和天皇貞觀十年戊子

光孝天皇仁和二年丙午醍醐天皇延喜五年乙巳

延長二年甲申朱雀院天慶六年癸卯

村上天皇應和二年壬戌円融院天元四年辛巳

一條ノ院長保二年庚子後一條院寛仁三年己未

後朱雀院長暦二年戊寅後冷泉院天喜五年丁酉

白河院兼保三年丙辰至レ此無カリトノ假殿遷宮之儀一

堀河院寛治四年庚午十月廿二日遷ス假殿ニ

假殿遷宮始也

喜保二年乙亥正遷宮

鳥羽院天永元年庚寅假

永久二年甲申正同三年乙未假遷ス東宮殿ニ

崇德院長兼二年癸巳正

近衛院久安二年乙巳假

仁平二年壬申正　高倉院　喜應元年己巳　依炎燒ニ臨時
兼安元年辛卯正
同三年癸巳假　遷ス東宮殿ニ
後鳥羽院　建久元年庚戌正
同七年丙辰　假　同九年戊午假
土御門院　兼元三年己巳正
順德院　建保六年戊寅　假　兼久二年庚辰
後堀川院　安貞二年戊子正

四條院　延應元年己亥　假　仁治三年壬寅假
後深川院　宝治元年丁未正
建長六年甲寅　假　亀山院　文應元年庚申假
文永三年丙寅正　後宇多院　弘安二年己卯假
弘安八年乙酉正　伏見院　正應三年庚寅假
同五年壬辰　一宿假　殿永仁四年丙申假
後二條院　嘉元二年甲辰　假十月
嘉元二年甲辰十二月正　花園院　應長元年辛亥假

後醍醐院元亨元年辛酉假

元亨三年癸亥正

元德二年庚子假

光明院康永二年癸未正後光嚴院貞治二年癸卯假

同三年甲辰正後小松院明德二年辛未假

同年十二月正應永七年庚辰一宿假殿東宮殿

同十八年辛卯正同二十五年戊戌一宿假殿東宮殿

同二十七年庚子假

後花園院永享三年辛亥正

文安二年乙巳一宿假殿

寛正三年壬午正後土御門院明應六年己巳假

後柏原院永正十八年辛巳假同日遷宮度會宮假殿

後奈良院天文十二年壬寅假

正親町院天正三年乙亥假

天正十三年乙酉正自此與二度會宮一同年遷宮乙

後陽成院慶長十四年己酉正

後水尾院寛永六年己巳正
後光明院慶安二年己巳正
仙洞寛文九年己酉正　天和二年壬戌假殿去年依火燒也
今上元禄二年己巳正
慶會宮　外宮
雄略天皇二十二年戊申鎮座伊勢國度會ノ郡
山田原一
天武天皇朱鳥二年壬辰遷宮

元明天皇和銅四年辛亥聖武皇帝天平四年壬申
孝謙皇帝天平勝宝元年庚寅
神護景雲二年戊申　桓武天皇延暦六年丁卯
嵯峨天皇弘仁三年壬辰　淳和天皇天長八年辛亥
文德天皇仁壽元年辛未　清和天皇貞觀十二年庚寅
宇多天皇寛平元年己酉
醍醐天皇延喜七年丁卯
延長四年丙戌　朱雀院天慶八年乙巳

村上天皇康保元年甲子　円融院永観元年癸未

一條院長保四年壬寅　後一條院治安元年辛酉

後朱雀院長久元年庚辰　後冷泉院康平二年己亥

白河院兼暦二年戊午

堀河院寛治四年庚午十二月二十四日遷御假殿

兼德元年丁巳　正遷宮

鳥羽院天永元年庚寅　假

永久四年丙申正　崇德院大治元年丙午假

保延元年乙卯正　近衛院久壽元年甲戌正

二條院永万元年乙酉假

高倉院兼安三年癸巳正

後鳥羽院建久三年壬子正　順德院建暦元年辛丑

建保五年丁巳假　兼久二年庚辰假

後堀河院寛喜二年庚寅正

四條院仁治二年辛巳假　後嵯峨院寛元元年癸卯假

同四年丙午假　後深草院宝治二年戊申假

建長元年己酉正　亀山院文永五年戊辰正

後宇多院弘安十年丁亥正　後二條院嘉元四年丙午正

後醍醐院正中二年乙巳正　崇光院貞和元年乙酉正

後円融院康暦二年庚申正

後小松院嘉慶二年戊辰假　應永四年丁巳假

應永七年庚辰正　同二十六年己亥正

後花園院永享元年己酉假

永享六年甲寅正　享德元年壬申假

後土御門院文明十八年丙午十二月遷吉戸明年四月假依ヲ兵大ニ也

長享元年丁未假　延德二年庚戌假

後柏原院文亀元年辛酉假　大永元年辛巳假

後柰良院天文十年辛巳假

正親町院永禄六年癸亥正　天正九年辛巳假

天正十三年乙酉正　自リ此與ニ内宮同年ニ造畧遷宮

後陽成院慶長十四年己酉正

後水尾院寛永六年己巳正

後光明院慶安二年　己巳正

仙洞寛文九年　己酉正

東山院
今上元録二年　己巳正　　宝永六年　己丑九月廿日正

右二所遷宮年歴也別宮造替遷宮ハ畧ス之ヲ

宝永二年両宮御木引材木ハ尾公御献進

大神宮司神事供奉日記

大司従五位下大中臣長則朝臣の家記也一巻ハ四條院延應二年七月十六日改元為仁治正月〜十二月に至り二巻ハ仁治四年二年三年の記ハ闕ス四年即寛元元年也　三巻ハ後嵯峨院寛元四年の記也二年三年の記闕　度會延佳長則自筆の本と〻〻慶安元年の春書写一元禄八年の六月市川氏之ヲ板ス　其文畧シテ記スレ之ヲ其書中遺忘に可備事の一二と

正月元日宮司自リ勝夜ニ参籠内宮一殿ニ云〻参着ス

御前石臺ニ八度拝　柏手別宮ノ拝云〻事畢ル之後参ル

外宮ニ云〻

按ずるに大国神拝元正先ッ内宮に参りて後外宮に参りし外宮の祝宮動しもされて拝礼皆外宮先の由云〻

雖也り御宮の祠官は已の奉祀の宮故元正に外宮に参り二日
より内宮に参り是と称し奉るの例とする歟然は故
皆て外宮前日参し之ナハ因に二所参詣と称し大神宮
より後に内宮に参詣する歟

其後参ル離宮院ニ云ニ向フ板殿大松ノ下ハ内宮祢宜云
任セ拝ノ札ニ各居スと云ハ朝拝如レ例三八度拝也云々
延佳日記云ニ離宮院板松本ニ為札ノ宮司ニ宮祢宜座下
云々離宮院昔ハ殿舎多ク並ビ立ツ今ハ皆絶テ中臣氏社のみ
残レリ朝拝とハ大司及ビ祢宜等朝廷と遥拝するなり
三八の拝とハ一八度ハ外宮の拝一八度ハ内宮拝一八度ハ
諸別宮の拝なり

十一日 自参

凡毎月朔十一日廿日に参すると自参称せり

十五日 踏歌ノ神事

雑例集と梅ちゃ踏哥ハ離宮院にて毘沙門堂ハ弟子僧人陪侍
第ノ中之我鏡同日踏哥ハむしろハ廿日十二日今ハ十日也其ノ付祝
調師神前ノ中ニ踏哥の詩頌と続ケ其文實に同ジ神
人ノ中子の疑と為シて撥を振て舞ふ者共たりのこれ
ハ云ハ方ノ中ニ

六月十五日 祇王御着河原殿ニ云ク

梅ちゃ祇王ハ男子内親王ニ云ク後鳥河院の姫宮也
宮よりハ河原殿ハ離宮也殿舎也

十八日 豊明神事

豊の明神ハ三体の解脱之是と京離宮ニ引ル歟

神事の今日に合ハ皆絶入嘆伴可ヶ[illegible]哉

七月臨時ノ奉幣使云々宣旨請文土毛等芽

加ヘ暑判ヲ云々

閏十月一日旬参十一日廿一日旬参云々

世俗今十月ハ神社へ[illegible]参ル[illegible]元或ハ[illegible]月の事[illegible]

[illegible]ハ皆俗家[illegible]月[illegible]

十月[illegible]ハ[illegible]参ル[illegible]可ヶ[illegible]也

十二月廿八日公卿勅使御参り云々火事之間祭

々御不審云々

此勅使ハ[illegible]内宮のみ院焼亡ニ[illegible]百絹被ヶ[illegible]

仁治元年十二月廿二日神宮のみ院火事奉[illegible]御体ヲ御元服

音楽如何之由被問諸道ニ廿四左大弁忠南卿ヲ為ニ勅使ト参

向神宮ニ長年宣命ヲ[illegible]日慶朝五ヶ日ト云々勅使参向三ヶ間

註記ト書[illegible]其間神歌の[illegible]

方ニ参向ト[illegible]御休[illegible]の条及歌の[illegible]

宮廟少[illegible]ハ[illegible]

[illegible]ハ[illegible]御元服の

[illegible]ハ宮廟ハ[illegible]

[illegible]

以上一巻

仁治四年正月云々十一日云々今日鹿骨三寸許アル見

付ル件骨無血氣古骨云々仍無血氣者不可

為穢之由有沙汰遂内宮参り畢ス

参宮の云々今疑穢の[illegible]紙古例を考[illegible]

三月云々内七ノ祢宜經之自去月下旬七ヶ日故障
伯父僧應俊先年死去ノ而今改葬云々
[illegible]ノ常ノ改葬の儀七日とゝ[illegible]ト永部二十日の
儀ともいふ基一今回余所[illegible]改葬の儀一日也
四月廿八日外宮假殿御遷宮云々火炎國房火祓行
宣云々
[illegible]仁治三年八月廿三日陳宣外記勘申ス祭主隆通卿宣ノ旨
豐受大神宮内院瑞垣内ニ[illegible]何[illegible]
祓事ニ任セ兼安ノ例ニ行ヒ假殿遷宮可被遂行ヒ神殿
簀子階等ヲ云々世紀ヒ去年三月十日往人[illegible]
大床ニ云々實ノ京扇の表ノ[illegible]

以上二卷

寛元四年四月奉幣使云々古部代參云々
[illegible]
十四日小俣河云々
[illegible]
九月云々柳例官幣權ヲ御神宝等雖有名字有
[illegible]

名無實之体也云云當御祭ニハ五色幣外号ニ例
幣ト前々被レ飾レ紙ヲ欲今度ハ現物ノ絹糸等ト云
中世官幣ヲ以テ書ヲ計リ書名無實の
ものしるしとなる後嵯峨帝ニ始テ勅定可ト
為ト今世流行ノ初官の後初ヲ定式の祝詞ハ
似セ書名有名無實の事なるを私幣ヲ以テ官
幣のごとく祝ス後ハ世俗の法祝詞のごとくハ古例
ヨ違セ官幣と称ス有名無實社分記の義なるべし
特業ヲ以テ可知之 皆是徒氏の名義にあらず今世
流行ノ初官多ハ名実離の事ヲ
作ル事ヲ新ニ勅ノ被レ命ノ
ス事ヲ 三社家源行ノ業ヲ
しい是祝ヲ以テ一ス

論語貧而樂集註云樂則心廣体胖而忘レ其貧也
孔子曰樂ハ貧ヲ樂ニ非ス而テ貧ヲ忘レ其人
大藥貧窮ハ自顧テ人の物と奪ヒ為ス 誠心生ス
然ルニ学ハ道ヲ為以テ貧ヲ忘レ 解ハ不能唯道ヲ
我ガ楽ヒ也人のことを不好ト何ト雖ト 意ニ
とりけてやまざるものなり 楽ハ道ヲ私欲ヲ
ものとして 貧富
の障ヨリ 居ル処也 ものなり 孔子
貧窮の学ハ 此れ
孔子の貧ヲ
と講ス人 此集註 孔子ハ
備前ノ少将光政熊沢氏と見ル 因故と稱ス 対
問小学と勧ラ 此熊沢氏所

いなる正しき心なるの術をとりて古と[illegible]世に[illegible]東都に
帰せしは然れども後鳥羽上皇京朝臣に謀りて全家四五人を今
東都に送り賢者なりと云へども東都にて[illegible]
世の光明なり[illegible]と謂へり然れども人是を其意に
得ずして悔て曰皇家を市井高家の前とは[illegible]
世の[illegible]と心なるべし意[illegible]
の[illegible]年老の[illegible]
[illegible]土佐の[illegible]野中[illegible]

[illegible]国政を執り[illegible]時或人曰野中氏八代の家
[illegible]孫小聰明なれども[illegible]文章有り道と正しく
すきもなく人中に権をもつて[illegible]他に謀る[illegible]
[illegible]と[illegible]して損死して家
絶ず板倉氏[illegible]と[illegible]
若し[illegible]
東照神君の仰に曰[illegible]
[illegible]

有ばかりなれども
又曰王道の治に國師とすべき所は
法華経なるべし
又曰諸教選ぶい私欲深き者なるべつさて欲深き者よ
國敵となるべきなれ
又曰海内の一人として爾を推ひ一人の主君の事
主君なりと雖ども虚名の騎虎なると我一人ばかり
ともなるべし主人我と事ばかりなる忠義を存ぜい程と

譬へば法人其君の眼をたのもうにと是師とあると真乃ものの
為ばかりの為者りと絶滅とをなるべ
又曰王道に法者法を曲尺の如ばたとへば長ば六尺
廣ば二尺と定るべきなり法ば師のたとへば能筆の人の筆
乃未だ定まるべきも其ものよりも是とかのものと定るべきと
いへば能道をめ式を得ば古法とおもひ新義と云べ
家と成る者多し其中其祖先國家と初て流れの才有り且又
世法の通し法華の為に法ばかりの道を定るべきと

常りのれ者と心根意と云て人ハ欲ゆゑ軽薄利ゆの好邪に
たゆゑかられて先祖の法ゆ利とゆかれと天命にそむかしかたて
方〳〵ゑ又曰天我ゑ天下の物と託ゆ法ゆ改道差と邪法ゆ変
ゆ事ゆ天必ゑ事と云〳〵法ゆ為
又曰古代ゑ云ゆ聖ゆ元祖乃仕業と云通にて有
舊ゆ臣と恵云と云ゆ聖ゆ〳〵何程〳〵
悔ゆ事ゆ〳〵みて家法と変ゆ一回乃為ゆ悔ゆ
新しき為ゆ悪しき者ゆ

又曰智ゆ記志の抵判ハゆ〳〵さ年ゆ茶屋世話ゆ物法ゆ永
南坂の町人曰小西摂津ゆハ肥坂四三十万石と〳〵ゆ
〳〵ゆ法ゆ一貫ゆ為ゆ酒ゆ常ゆ〳〵ゆ法ゆ先ゆ〳〵ゆ
ゆ地ゆ〳〵ゆ記ゆ為ゆ〳〵ゆ法十万ゆ為ゆ為ゆ〳〵ゆ基ゆ何ゆ益
〳〵ゆ記ゆ〳〵ゆ記ゆ云〳〵ゆ高人ゆ〳〵ゆ為ゆ〳〵ゆ法ゆ為ゆ
〳〵ゆ法ゆ楽ゆ〳〵ゆ為ゆ〳〵ゆ為ゆ〳〵ゆ為ゆ他ゆ雑ゆ
〳〵ゆ〳〵ゆ法ゆ為ゆ〳〵ゆ為ゆ〳〵ゆ為ゆ国ゆ〳〵ゆ
道ゆ為ゆ〳〵ゆ為ゆ〳〵ゆ為ゆ〳〵ゆ為ゆ〳〵ゆ為ゆ

[illegible]国郡村里の[illegible]

石井上主計頭正就朝臣慶長の末駿府にて[illegible]

御[illegible]を[illegible]と[illegible]

猶数條有[illegible]畧して写し我童蒙に[illegible]

御德の[illegible]と[illegible]

記に曰あの御書に曰人道を[illegible]道と[illegible]

八[illegible]と[illegible]義と[illegible]

多く歴誕[illegible]百八必瘧病[illegible]

[illegible]

[illegible]

人[illegible]御言也

春日若宮神主従四位下式部少輔中臣連祐[illegible]

八幡[illegible]

[illegible]

[illegible]

七日春日祭礼はじまる四座猿楽の神事
たゝゝ當社年番一社家より館にて
初座の席より日和奉祝する社人春日四所より若宮の四神
と称せられ御祭礼ありしかるに日吉社参詣
宮といふもの神とのゝ神とのゝ社なりしに　大王命
と号ゝゝ若宮に若宮に若宮に若宮に
や千嶋家　祝部宗
四所の四神陪従の人数なり　若宮殿近冠の
四記ゝゝ作ゝ神主家の系統
右八向井三位　春日摂神美中臣朝臣時雨七十歳
に書ゝ作ゝ
春日に祭る四所の中第一の御殿武雷命八神護景雲二年
十一月九日に今の三笠山の頂上に鎮座
第三御殿は孝徳天皇四年戊申十一月戊申日河内國平岡
より後御の内宿西伊予守師言朝臣の家記に
第二第四の御殿は其後　勅命を奉て配宮あり　春日ノ

神社記等と考へ合せ

右ハ丙戌の春春久て御[illegible]師乃郷去年ヒ四十一月

十日第一の神主に補し十二月六日於テ神前ニ拜賀

の儀ヲ今年二月十日正三位と淨[illegible]四月廿二日の文[illegible]

伊勢神宮旧記ニ云中臣祓如ニ此聞食天波ヶ下ヘ皇御孫乃命乃

朝廷等ニ是ハ　朝家の御祈の時の文也私の祈ニ

ハ其の細と宮に[illegible]

祓勤仕儀式日思按ニ入ニ別頒ニ而本文分明ニ云

○

樊田大宮司李範五世の嫡流刑部少輔忠成朝臣實ハ大江

廣元男也其他千秋別流者ハ如ニ元ト藤原也

或人ハ長寛の比富樫介と云有名ハ如何と予曰或説ハ

長寛元年の頃ヨリ富樫介正親と云人[illegible]

成[illegible]

又大永の比尾上某遠別に方如何と予曰大永四年八月

廿六日の綸旨に尾上右京亮と有[illegible]

富樫ハ[illegible]子口少ニ貧厳ニ一身ノ多ク

世人貧富人の情[illegible]

○齊ノ東昏侯好奢侈ヲ以テ黄金ヲ鑿リ成シ蓮花ヲ列ニ之ヲ
於地ニ令ム妃潘玉奴行ニ其上ニ曰歩々生ス蓮花ヲ
按ニ溶屠氏歩々蓮花ニ之説本此以ヲ為佛国之風ト欲

○春日社大中臣ノ師尋帰第一の神主より補一正三位上階
の由宣旨越畢ぬるよ六月六日
ハ以ての外ハ家の侍ハ神主ハ名ハ所ハ
凡士ハ者邪侯にして驕元ハ回ハ
にて貨殖ハ其身ハ財ハ失ハ自ハ貧窮ハ
ハ

ハ如何して士ハ云ハ為ハ行ハ
陽ハ欲各ハ陰ハ欲ハ私欲ハ鄙行ハ其ハ君ニ仕ハ国家
ハ鄙ハ義ハ云ハ節ハ使リ命ハ奉ハ尽ハ
臣ハ身ハ常ハ行ハ毎ハ鄙各ハ財ハ興ハ
ハ蓄ハ為ハ身ハ使ハ富ハ此利心
ハ見ハ己ハ利ハ捨ハ
ハ顧ハ
ハ行ハ

せり或ハ嬢情の情より義を外にし身命を愛し者を
捨てよせて合戦に臨て胥動跋扈し敵に皆と見せんも
疑敵しかゝ路のもつゝ侯弱の癒病人何を国家の事
を分紀是其根一度利欲に溺て天性を驚し行れに拙や
ひとゝ各書を展考ゝゝ人ゝ貨殖ハ商賈
の業にして士農の事にあらずと
道を傳曰許邁字叔玄清虚接真題揆表志所在
往而不返故改名遠遊と與王右軍父子一為二世

外之交云云

士の俗と交れて方外の交とゝ
ゝ分紀ゝ

○

世説新語補宋劉義慶撰明何良俊増 曰陶徵士嘗言り五六月
北窓下卧遇涼風暫至自謂是羲皇上人十四卷見ダリ
又曰孔極侍帝朝廻遇雨避於一望之廡下云云
望烏帽紗巾云云公借油衣望曰某塞不出然不
出雨不出未嘗置油衣也孔公不覚頓忘官情云云
島帽ハ烏帽子の有脇ゝ方と轉ゝ者歟也
日本代ものゝ又此衣ハの今倭俗ゝ

顏之冷ゝ八ゝ南蛮人の吸肺[illegible]と称して今の[illegible]
の製に似たり[illegible]
[illegible]
池袁の家伝[illegible]

○河南の樂羊子の妻賢也夫遊学の間妻帯にて[illegible]
[illegible]姑と共に[illegible]他舎の雞園中に[illegible]姑[illegible]
盜て殺[illegible]是[illegible]舎妻雞肉に対して[illegible]餐姑怪て
其故と問[illegible]羊曰自傷貧て食に他肉[illegible]
[illegible]姑と[illegible]感情して棄去[illegible]又樂羊子行路に
遺金一餅を拾ひ得還りて妻に[illegible]妻[illegible]曰

安南志士八盜泉の水とて[illegible]飲す廉者い嗟来食を受
す吮や遺[illegible]と拾ひ利と求て以て其行を汚[illegible]
や[illegible]の八羊子大に断て金[illegible]の[illegible]捐て後
盜人[illegible]
て死[illegible]
[illegible]傳及世説等に
くはしく[illegible]

筑後国高良山の内吉見の嶽と[illegible]山有天祝三年
高良山十景の中に

今出川前内大臣公規

[illegible]

慶長十八年十二月三日　公欲レ帰二駿府一、出二江戸一、六日至二

中原一、有レ人（名馬場八左衛門）訴二大久保忠隣一、相模守公召レ本多正信一、佐渡守

問レ之、正信以二口給一、彼之罪、二十六日遣二忠隣一於

京師及西海一、令二契利斯当之徒一

十九年正月二十日、定二大久保氏之罪一、二十一日

遣二安藤重信・榊原康政一、得二相州小田原城一、二月二日

謫二忠隣一於江州一

[illegible]

出ていらっしゃる事と三河国敵も[illegible]
さぞかしいかりようは伝聞いたしかねる
[illegible]の器をもらい
[illegible]
[illegible]
[illegible]

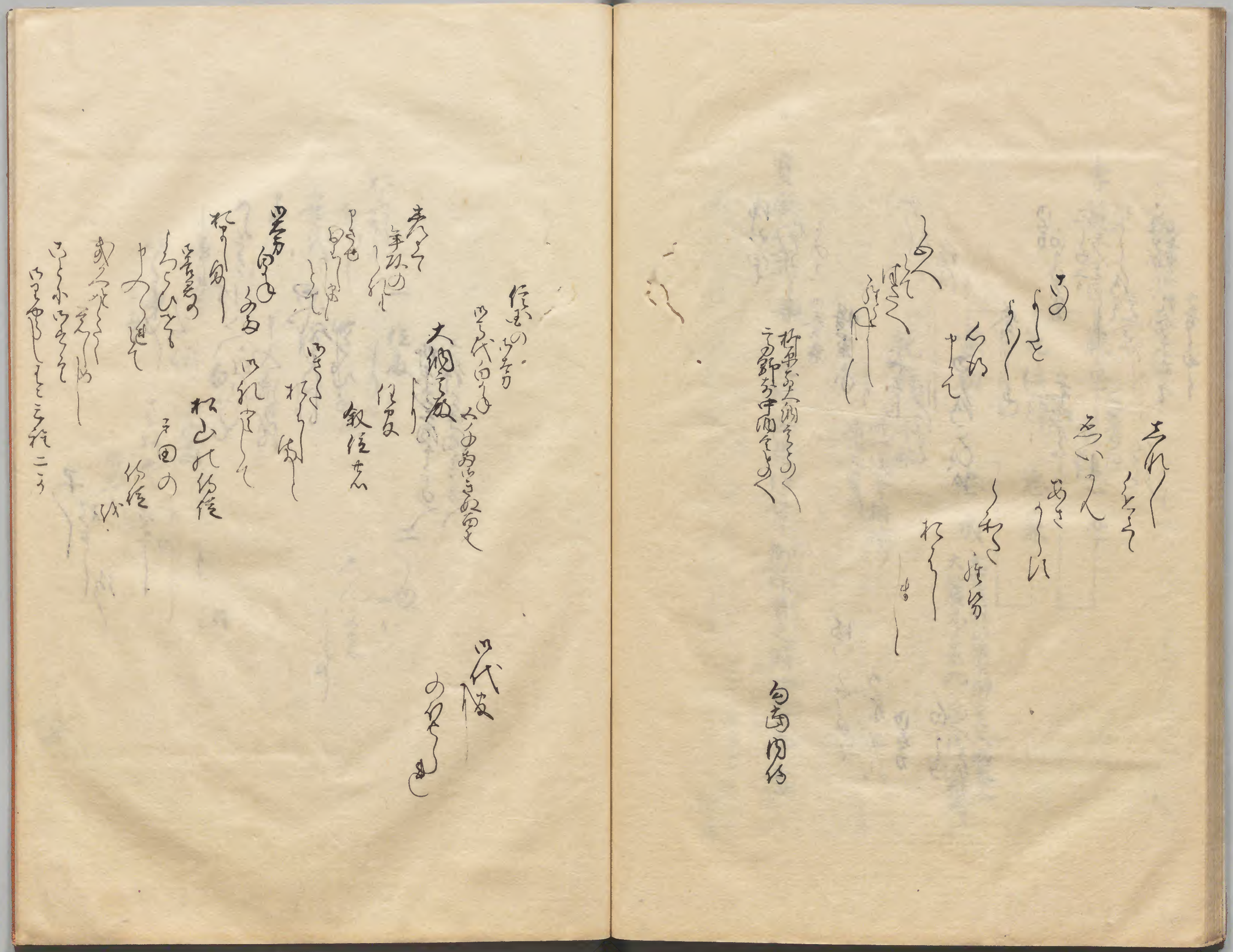
文祿慶長ノ頃ノ容也

出ヶ[illegible]河国敵と[illegible]石性の[illegible]
させるこいりょうやく[illegible]
[illegible]年紀元の巻の器[illegible]
[illegible]
[illegible]と紙て姫[illegible]羅にあ[illegible]
[illegible]と馬場某[illegible]
[illegible]霊と接[illegible]騎元帥[illegible]
[illegible]氏小田原に[illegible]
[illegible]城下に[illegible]
[illegible]
[illegible]

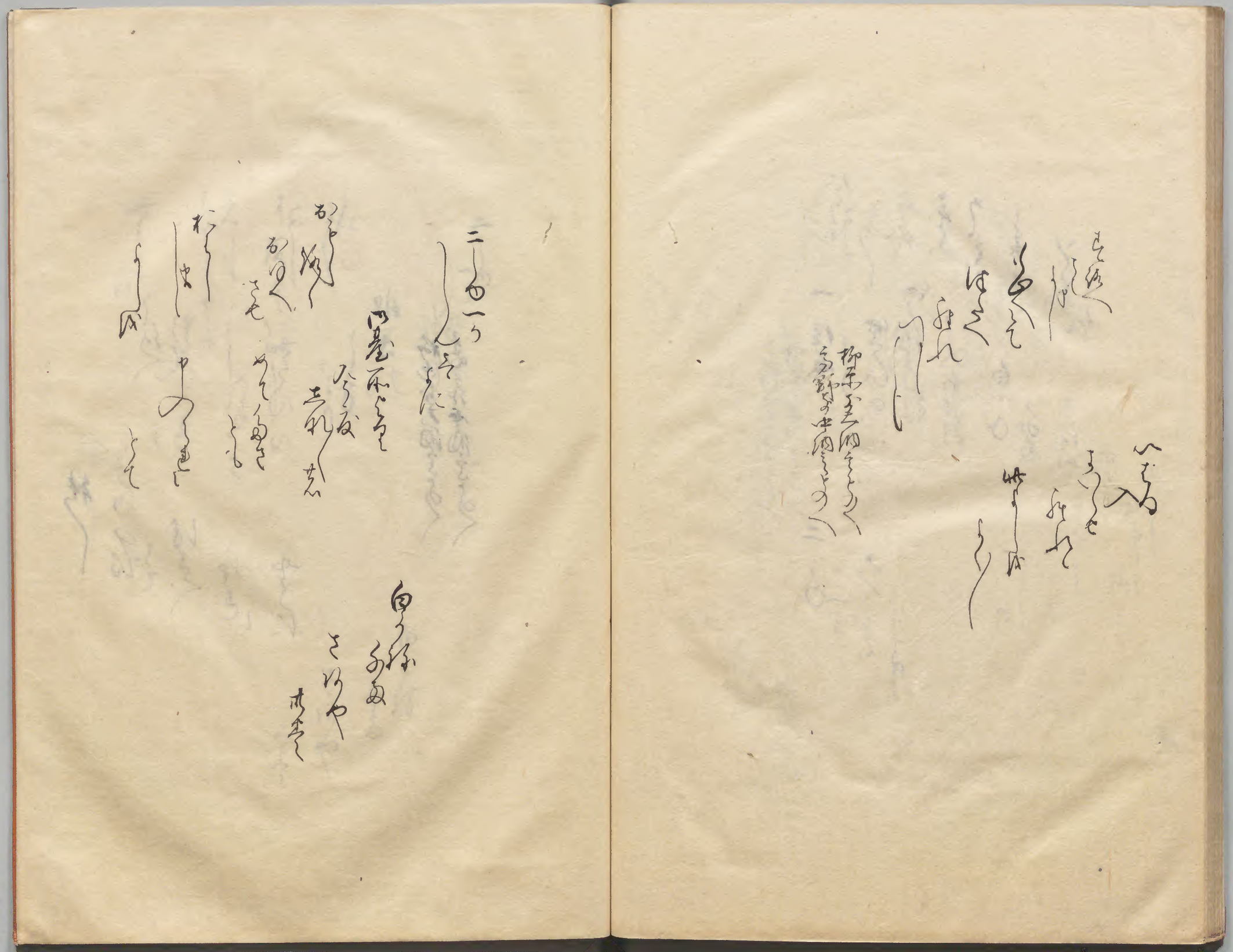
○ 贄田大宮司

季範
- 範忠 大宮司
  - 忠季
- 範信 星野
  - 忠兼
- 憲朝
  - 忠成 大宮司刑部権少輔実大膳大夫 大江廣元ノ子也 此一流三代ニ ノ術絶ス
- 範時 千秋 此一流今相續メ 補ス大宮司ニ

○ 寶永二年ノ春 大樹 御轉任世子 御昇進之時 女房奉書



国立公文書館
National Archives of Japan



国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan